

2005年9月14日
「夢みる山」事務局

押井守演出 スペシャルイベント 舞踏「アイオーン」

長久手会場の企業パビリオン・夢みる山のテーマシアター「めざめの方舟」では9月15、6両日に、スペシャルイベントを行います。

このイベントは「めざめの方舟」を総合演出した押井守監督、音楽を担当した川井憲次氏、そして押井氏の実姉で舞踏家の最上和子さんとのコラボレーションで実現します。

夢みる山テーマシアター「めざめの方舟」は、積水ハウス、中部日本放送、東海テレビ放送、中日新聞社の4社による共同展示です。

● 内容

タイトル：「アイオーン」

出演：最上 和子

演出：押井 守

音楽：川井 憲次

開催日時：9月15日(木)、16日(金)とも20時45分から各日1回のみ公演

上演時間：約20分間

場所：「めざめの方舟」内

(1階の床面映像装置がステージとなり、観覧スペースは周囲のスロープ)

定員：200名

入場方法：両日とも、当日の19時から「夢みる山」イベントステージ前で整理券を配布

ご注意：このイベント準備のため、両日とも通常プログラムのうち20時15分と同30分からの計2回のテーマシアター「めざめの方舟」の上映は割愛させていただきます。

●最上和子さんプロフィール

千葉県在住。OL、看護師などの職を経て、舞踏と衝撃的に出会い自らも踊りはじめる。バレエ・ダンス・日本舞踊、その他のどの舞踏とも異なる新しい身体表現の可能性を求めて、公演、ワークショップ等の活動をおこなっている。

主な作品 2002年「緋(スカレット)」2003年「典雅の市」2004年「アナバシス」など。

最上和子ホームページ <http://www.nonc.jp/mogami/>

東京スペースダンス <http://spacedance.sitego.to/>

●最上和子さんからのメッセージ (公演に向けて)

「めざめの方舟」内部の、周囲に並ぶ六将たちをギリシャ悲劇でいうコロスに見立て、この空間をまがまがしくも聖なる鎮魂と招魂の儀礼の場としたい。

「アイオーン」とは原初の生成の力が地からわき立つ、恐るべき時間の流れをさすギリシャ語であり、このことばの強い喚起力が私を聖性の場所に引き揚げてくれることを祈りつつ

※六将（りくしょう）

押井守監督が「めざめの方舟」の演出のために創造した造形物。体が人間で頭部が動物という高さ2.3～3.5メートルの巨大擬人像。地球の歴史の目撃者として設定されている。1階の床面映像装置の周りを取り囲むように139体が整然と並ぶさまは壮観。

※※アイオーン

時を刻み続ける永劫の神であり、物語を記録し続ける絶対中立の立場を誇示している。全ての創造の源泉である混沌空虚のカオスから生まれた最初の神の一人。兄弟には暗黒神エレボス・夜の女神ニュクス・大地母神ガイアがいる。

※※※コロス

古代ギリシャ演劇で、音楽に伴奏されて劇に参加する一群の歌い手と踊り手。合唱隊とも訳される。

コロスはある共同体を表象する人物から構成される。たとえば、アイスキュロスの「アガメムノン」においてはミケーネ市民の共同体、あるいはエウリピデスの「トロイヤの女たち」における犠牲者の共同体である。

コロスの（歌うにせよ語るにせよ）その言表行為は自分自身、すなわち何よりもまず観客に向けられている。したがって、コロスは、主人公たちと観客との間の媒介者として提示され、そのようにして際だつやり方で、演劇に固有の二重の言表行為を明らかにする。

● 音楽について

「めざめの方舟」の音楽を担当した川井憲次氏が、本編とインターミッションの音楽にアレンジを加えて、今回の舞踏用に新たに制作した。最上和子さんの舞踏を引き立てるため、全体的に音圧感の無いものに仕上げ、犬の遠吠えなどSE（サウンドエフェクト）を加えた。